

事例 15

タイトル：食事場所へのこだわり、他利用者のやり方への批判から絶えない トラブル

・ <事例の状況>

Aさんが入所するまでは、利用者の食事の席は特に決まっておらず、その時々に合わせて座っていた。Aさんは入所当初より自分の席を決めてしまい、他の方が座ろうものなら、「何をするんだ！私の場所だ。」と怒鳴り声を上げてしまい、大抵の利用者は剣幕に押されて場所を空けてしまうが、気の強い利用者は負けずに言い返すためにたびたびトラブルになってしまう。おしぼりたたみなどをしてもらっても、やり方が少しでも違くと大声で注意をするなど、周りを萎縮させてしまう場面が見られる。そのような場面が見られた場合は、職員が中に入りすぐにおさまっているが、たびたび起こっている。

・ <この事例で課題と感じている点>

Aさんは誰もが自分と同じように出来ると思っているため、他の利用者のやり方について批判する。利用者同士のトラブルの場合に、怒っている方と怒られている方のまずどちらに優先して声を掛けるか、またどちらも尊重するにはどのように対応するべきか。

・ <キーワード>

他者への批判。 席への固執。 トラブルへの介入。

・ <事例概要>

【年 齢】 80代前半

【性 別】 女性

【職 歴】 自営業の手伝い 保険の外交 販売店のパート

【家族構成】 子供夫婦と同居

【認知機能】 HDS - R 6点

【要介護状態区分】 要介護2

【認知症高齢者の日常生活自立度】

【既往歴】 高血圧 心房細動 弁膜症

【現 病】 アルツハイマー型認知症 心房細動 大動脈弁閉鎖不全症

【服 薬】 ワーファリン・ジゴシン・アムロジン

【コミュニケーション能力】 簡単な事柄、その場の会話は可能。あまり自分から話すことはない。

【性格・気質】 もともとの性格は几帳面

【A D L】 食事、排泄、移動は自立。入浴は一部介助

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 洋裁

【生活歴】 洋裁学校を出て洋裁の仕事をしていた。結婚してからも仕立ての仕事に出ていた。

その後は自営業の手伝い、保険の外交などをしながら、孫の面倒を見てきた。20年程前に介

護しながら夫を看取る。80歳になった頃より夜中に外を歩き回る、鍋を焦がす、妄想(弟が亡くなったので行かなければ)などの症状が見られ、専門病院を受診しアルツハイマー型認知症の診断を受ける。入院中は他者に対して大声を出す、いつもと違う方が自分の周りに座ると強引にどけようとするなどの行為が見られた。そのような症状はあるが、身体状態は安定しているため介護老人保健施設への入所となる。

【人間関係】 老人クラブにて行事などに参加していた。施設入所中は軽作業などの活動や個別での縫い物などには参加するが、多人数でのレクリエーションには参加しない。

【本人の意向】 「何もないけど、洋裁がしたい。」と言う。「自宅へ帰りたい」などの意向は聞かれない。

【事例の発生場所】 介護老人保健施設